

ハウスビワにおける果実内部腐敗の薬剤防除法

[要約] ハウスビワで発生する果実内部腐敗は、満開期、落弁期、袋かけ前にベンズイミダゾール系薬剤（ベンレート、トップジンM）の3回散布，または満開期にベンズイミダゾール系薬剤を，落弁期及び袋かけ前にベルコート水和剤を予防的に散布する体系防除によって防除できる。

長崎県果樹試験場・病害虫科

専 門

作物病害

対 象

果 樹 類

分 類

普 及

平成 9年度長崎県果樹試験場業務報告

[背景・ねらい]

施設栽培の増加に伴い，果実腐敗の発生が問題となっているが，特に‘福原早生’で果実内部から腐敗するものが多いので，薬剤による防除法を明らかにする。

[成果の内容・特徴]

- ①ベンズイミダゾール系薬剤（ベンレート，トップジンM）の3回散布，または満開期にベンズイミダゾール系薬剤を，落弁期及び袋かけ前にベルコート水和剤を散布する体系防除によって防除できる。
- ②ビワに新規登録されたベルコート水和剤は，腐敗を引き起こす *Colletotrichum* 属菌及び *Alternaria* 属菌が開花時に感染する前に予防的に散布することによって，腐敗果の発生を抑えることができる。

[成果の活用面・留意点]

- ①ベンズイミダゾール系薬剤（ベンレート，トップジンM）及びベルコート水和剤は，灰色かび病との同時防除ができる。
- ②ベルコート水和剤は，ベンズイミダゾール系薬剤，ジカルボキシイミド系薬剤及びEBI剤等と作用機作が異なるので，これら薬剤に対する耐性菌であっても高い防除効果が認められる。
- ③‘福原早生’は，果実内部腐敗に対して罹病性であり，薬剤防除だけでは腐敗を完全に抑えることはできないので，耕種的防除を含めた総合的な防除法の検討が必要である。

[具体的データ]

表1 ‘福原早生’果実内部腐敗に対する各種薬剤の防除効果（農家圃場）

供試薬剤 及び 試験区	収穫 果数 (果)	貯蔵日数と発病果数(果)			切開後の 発病果数 (果)	発病果 合計 (果)	発病 果率 (%)
		3日後	5日後	7日後			
ベルクト水和剤 1,000倍							
(1)袋かけ前 1回散布	30	0	0	0	1	1	3.3
(2)袋かけ前 2回散布	31	0	0	0	0	0	0
トップジンM水和剤 1,000倍							
(1)袋かけ前 1回散布	30	3	0	0	1	4	13.3
(2)袋かけ前 2回散布	21	0	0	0	1	1	4.8
無処理	28	2	0	0	1	3	10.7

散布時期：11月25日（満開期）に、ベルクト水和剤 2,000倍を無散布区を含む全試験区に散布。
 12月13日（落弁期）に、供試薬剤を散布。
 1月16日（袋かけ前） ”
 袋かけ時期：1月17日 収穫日：4月21日

表2 ベルクト水和剤の散布時期別による各品種の腐敗果の発生

供試品種及び試験区	調査 果数 (果)	貯蔵日数と腐敗果数(果)				切開後の 腐敗果数 (果)	腐敗果 合計 (果)	腐敗果率 (%)
		3日後	5日後	7日後	9日後			
長崎早生								
菌接種 3日前薬剤散布区	43	1	0	0	0	0	1	2.3
菌接種 3日後 ”	41	2	0	2	1	0	5	12.2
無処理	44	5	0	3	1	0	9	20.5
茂木								
菌接種 3日前薬剤散布区	41	0	1	0	1	0	2	4.8
菌接種 3日後 ”	40	0	0	0	2	0	2	5.0
無処理	33	0	0	0	0	0	2	6.1
福原早生								
菌接種 3日前薬剤散布区	42	0	1	0	1	2	4	9.5
菌接種 3日後 ”	44	2	0	0	1	8	11	25.0
無処理	41	1	1	0	1	3	6	14.6

薬剤の使用濃度：1,000倍
 病原菌接種：12月20日
 薬剤処理：12月16日（接種 3日前），12月24日（接種 3日後）
 収穫日：‘長崎早生’4月16日，‘茂木’及び‘福原早生’5月12日

[その他]

研究課題名：施設病害虫の効率的防除法の確立

予算区分：県単

研究期間：平成 9年度（平成 6～10年）

研究担当者：古賀敬一，西野敏勝

既発表論文等：平成 9年度 長崎県果樹試験場業務報告